

令和元年度下関市小学生中国派遣研修 報告書

下関市小学生中国派遣研修団 引 率
下関市立王司小学校 教諭 松本 晶代

下関市小学生中国派遣研修に参加する市内小学6年生の代表15名の引率として、中華人民共和国青島市を訪問した。

期間は、令和元年10月12日（土）から16日（水）までの4泊5日である。研修団全員が役割を果たすべく取り組んだ貴重な研修について、以下のように報告する。

1 事前研修

◇ 開講式 7月20日（土） 下関市立勝山公民館 13:30～14:00

下関市立勝山公民館にて、開講式が行われた。下関市総合政策部国際課の安部課長に続き、金嶋団長が挨拶を行った。「今回の派遣で、学ぶことの大切さを感じてほしい。これからの人生に生かすことのできる大きな学びがあるはずだ。」という金嶋団長からの話に、皆深く頷いていた。団員の自己紹介では、初めての顔合わせに緊張しながらも、この研修を通して学びたいことをしっかりと伝えていた。自己紹介の中に「日本の文化を伝えたい。」「文化の違いを学びたい。」という言葉が多く出てきており、団員たちの意識の高さが感じられた。

◇ 事前説明会 第1回研修会 7月20日（土） 下関市立勝山公民館 14:00～16:00

はじめに、旅行会社の方が日程の概略や海外における心得などの説明をしてくださった。団員と一緒に保護者の方々も話を聞いた。

この後、団員だけの研修となる。まず、下関市総合政策部国際課の吉田主事の指導のもと、アイスブレーキングとして「他己紹介」という活動を行った。団員たちは2、3人組になり、相手に様々なことをインタビューし、聞いたことを全団員に紹介していった。更に金嶋団長の指導により、チームワークを高めるゲームを2つ行った。お互いの名前と顔、特技や好きなこと等が分かると笑顔が出てきた。少し打ち解けてきたところで、団員のリーダーを決めた。4人も立候補者がいたことが嬉しかった。4人で話し合った結果、吉岡団員がリーダー、池田団員、衛藤団員、友村団員が副リーダーとなった。早速、この4人の進行で訪問先での交流会の出し物について話し合った。たくさんの意見が出された中から、「ミニ運動会」「日本の遊び」が候補となったが、交流の具体的な内容を確認してからもう一度検討することとなった。

◇ 第2回事前研修会 8月29日(木) 下関市勝山公民館 13:30~16:00

研修会のはじめに、吉田主事が昨年度の中国派遣研修の様子が分かるスライド写真を見せてくださった。昨年度の交流の様子を見せてもらうことで、自分たちの交流のイメージを持つことができたようだった。

第1回目の研修会后、発表のお返しとしてどんな「出し物」ができるかをそれぞれの団員が考えて来るようになっていた。今回は、団員たちが考えたたくさんの「出し物」の中から、どれにするのかを決めることから始めた。話し合いの結果、「パプリカの歌とダンス」と「下関クイズ」をすることに決定した。「下関クイズ」の内容・役割分担を決めた後、次回までにクイズの準備をしておくことを確認した。その後、訪問先での挨拶の担当者を決めた。中国語での挨拶を希望する団員もおり、各団員の意欲が表れていた。青島日本人学校への質問は、それぞれが考えて来ることとなった。

この日は、前日からの大雨の影響で公共交通機関は運休、高速道路は通行止めとなっており、大渋滞となっていた。この大雨の影響で、事前研修会に参加できない団員がいたのが残念だった。

◇ 第3回事前研修会 9月8日(日) 下関市立勝山公民館 9:30~12:00

今回の研修は、訪問先で披露する出し物の準備・練習を中心に進めたが、どの団員も自分たちの役割を自覚し、協力しながら活動することができた。

まず、「下関クイズ」の担当に分かれ、それぞれでどんな問題を出すか話し合いを行った。各自が考えてきたものを持ち寄っての話し合いだったので、その中からより良いものを決めることができた。決まったグループから、問題を大きく提示するため大判用紙に書く作業をした。現地の方にも分かってもらえるように中国語でクイズを書こうと、研修に参加してくださった国際課の王さんに中国語を教えていただきながら作業を進めた。

その後、青島日本人学校からの質問の回答を大判用紙にまとめた。どの団員も準備がきちんとできていたので、スムーズに活動することができた。

次に、今回の派遣での出し物として決まった「パプリカの歌とダンス」の練習をした。各自練習してきた成果が出ており、とても上手に踊ることができていた。楽しそうに歌って踊る姿に、練習を見てくださった王さんから「とても素晴らしい。感動した。」と感想をいただき、団員の表情が良くなった。

「2番の歌は中国語で」という案もあったが、王さんから「日本語の方がいい。この歌の良さは、日本語のままの方が伝わる。」とアドバイスをいただいたので、このまま日本語で歌うことになった。

最後に、中国語の学習をした。王さんから簡単な挨拶などを教えていただき、何度も声に出して練習した。中国語の難しさを感じながらも、どの団員も一生懸命に覚えようと頑張る姿が見られた。

◇ 結団式（副市長表敬） 10月1日（火） 下関市教育センター 16:30～17:00

下関市教育センターにて、結団式が行われた。

団長・引率の挨拶の後、団員は一人ずつ自己紹介をした。また、濱口団員は代表として今回の派遣研修で目指すことを語り、「言葉は通じなくてもコミュニケーションをとって友達を作りたい。」と挨拶をした。三木副市長から親善大使としての認定証とバッチをいただいた。緊張した雰囲気ではあったが、その後、交流会での出し物「パプリカの歌とダンス」を披露した。三木副市長からは「文化の違いにわくわくしながら体験し、違いを発見して来てほしい。そして、青島の方々との交流を楽しんでほしい。楽しんでこそ学びにつながる。」と激励の言葉をいただいた。団員としての使命を再確認した結団式となった。

◇ 第4回事前研修会 10月5日（土） 下関市立勝山公民館 13:30～16:00




事前研修としては最後の研修会になった。今回の研修の大まかな流れを吉田主事から説明してもらった後、青島日本人学校6年生15名からのビデオメッセージを見た。ビデオの内容から、青島市の概要、学校の設備や学校生活の様子がよく伝わってきた。また、研修団の訪問を心待ちにしてくれていることも伝わってきて、団員一同大変嬉しそうだった。


前回の研修の続きとしてグループワークを行い、仕上がったグループから発表の練習を行った。中国語でクイズを出すグループがほとんどで、中国語をしっかりと覚え、なめらかに発音する団員もいた。

最後に出し物の練習を行った。金嶋団長から、「踊りと笑顔で気持ちを伝えることもできるが、歌声も大事だ。日本語は理解してもらえないかもしれないが、歌声を届けよう。」と話があった。すると、一人一人の意識が変わり始めた。歌声が良くなっただけでなく、踊りがそろっていないところを指摘し合い、練習をやり直す場面が見られた。チームワークが良くなり、団結していく様子が見られたことは大変嬉しかった。さすが、向上心のある子供たちであると再認識した。

2 中国訪問

1日目：10月12日（土） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
11:00	出発式 (新下関駅)	<ul style="list-style-type: none"> ・団員15人全員元気に集合した。保護者や学校関係者など、約50名に見守られての式であった。 「代表としてはずかしくない行動をし、たくさんの方と触れ合って素晴らしい研修にしたい。」と池田団員が意欲に満ちた立派な挨拶を行った。写真撮影をし、家族に見守られて新幹線のホームに上がった。 
11:25	こだま号で出発 地下鉄で福岡空港へ	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号の影響で新幹線が大幅に遅れていたため、予定のさくら号を待たずこだま号に乗って博多駅まで行った。3連休の初日、しかも大型の台風の影響で大変混雑しており、大きなスーツケースを持つての移動は大変だった。添乗員の香月さんの後について博多駅から地下鉄に乗り込み、福岡空港に向かった。
12:00	連絡バスで国際ターミナルへ	<ul style="list-style-type: none"> ・国際ターミナルまでバスで移動中、滑走路が見えてくると団員たちから歓声が上がった。国際空港の広さに驚いて思わず声が上がったようだ。
12:45	移動後機内へ	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡空港に着き、香月さんに荷物の管理などについて説明を受ける。搭乗手続きが混み合っていた上に、スーツケースの中にカメラのバッテリーを入れている団員がいて止められ、全員が終わるまでに50分かかった。 
14:40	中国東方航空機で出発	<ul style="list-style-type: none"> ・機内から窓の外の様子を写真に撮る団員が多かった。 ・中国語のアナウンスで、日本を離れることを実感したようだった。 ・機内食まで待てない団員は、お菓子を取り出し食べていた。機内食にサンドイッチが出されたが、日本とは少し違う味に戸惑う団員もいた。
16:00 ここから現地時間	青島空港着	<ul style="list-style-type: none"> ・団員は緊張しながらも入国検査を受ける。荷物を持って空港を出るとほっとしたようだった。青島空港の規模の大きさと外観の美しさに驚きの声が上がった。(この空港はもうすぐ閉鎖され、新しい空港が出来るそうだ。) ・青島市城陽区人民政府弁公室の郝さんと、ガイドの姿さんの出迎えを受ける。 

16:30	バスでホテルへ	<ul style="list-style-type: none"> ・車中で姿さんから青島市や山東省についての話を聞く。 ○ 人口900万人の青島市。経済金融の中心地。 ○ 青島市の歴史は120年ほど。昔は漁村だった。 ○ 1897年にドイツが入り、町を創った。旧市街地と呼ばれる場所。現在ビール醸造が有名なのもその影響。 ○ 山東省の有名人・・・孔子、孟子、孫文など。 ○ 膠州湾には36.5kmの世界2位の長さの橋が架かっている。 ・車窓から青島市のメインストリートやピヤホールなどの明るいネオンの輝く町を見ながら話を聞いたが、団員たちは写真を撮ることに夢中になっているようだった。
17:55	ホテル着	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルに着いてチェックインした。 9階の部屋に荷物を入れてすぐに食事に行くため廊下に集まったが、カードキーを部屋に残したまま部屋を出てしまった団員がいた。早速のミスにも吉田主事、香月さんがすぐに対応してくださった。 
18:15	ホテルのレストランで夕食 近所のコンビニで買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・団員が初めて揃って食事をした。 回るテーブルに次々に料理が運ばれてきた。日本の中華料理とは違う味付けに驚きながらも、チャレンジして色々な料理を食べていた。 ・食事の後、明日からの交流で着用するTシャツとリストバンドが渡された。それを部屋に置いた後、ホテルで両替をし、近くのコンビニに飲み物などを買いに行った。どのお札を出せば良いのか分からないまま支払った感じだったが、何とかお釣りをもらい、初めての買い物は無事終了した。 
19:45	反省会	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルのロビーに集合し、これからのことについて金嶋団長から連絡をしていただく。今日の振り返りをノートに残すこと、明日からの研修に備えて早めに就寝することを確認した。 ・部屋に戻ってからが大変だった。国際電話をしようとしたが部屋から電話ができない、シャワーの使い方が分からないとアクシデントが続いた。シャワーの使い方は何とか分かったが、国際電話のかけ方は吉田主事と香月さんがいろいろ手を尽くして下さったが分からなかった。最終的に、今日電話すると家族と約束している団員だけ吉田主事の携帯で電話してもらうことになった。

【今日の振り返りより】

- 飛行機で青島に着いた時に、日本とは違うにおいがしました。チェックインもすぐできずに戸惑いましたが、何とか空港を出ることができました。ホテルがとても大きく、びっくりしました。バスの中から見た景色も建物が高かったりキラキラしたりして、下関とは全く違う街並みが面白かったです。食事では中国の料理がでてきて、味や見た目も日本とはちがいが美味しかったけど、独特な味付けのものがあり、新しく食べた味でびっくりしました。部屋ではシャワーの出し方が分からず戸惑いましたが教えてもらって無事入ることができました。お金の使い方も少し難しかったけど少しは払えるようになりました。(山田団員)
- 中国は日本と違って少し気温が低いです。夕方ごろになって19度前後になっていてとても肌寒く感じます。青島はできてから約120年しかたっていないそうです。そして昔、漁業を営んでいた小さな村だったそうです。日本と同じようで、全然違います。例えば車の運転席と助手席が違ったりします。(小林団員)

2日目：10月13日（日） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
7:00	ホテルでバイキング形式の朝食	・全員元気に顔をそろえる。ホテルの25階、回転レストランで朝食。たくさんの料理の中から、自分の好みを見つけて美味しくいただいた。海のそばのホテルのため、景色がとても良かった。
8:30	バスで出発	・今日の午後は出し物の披露もあるので、Tシャツやリストバンド、クイズの紙、自分で準備してきたお土産を持ってバスに乗る。ガイドの姿さんの案内を受けながら青島極地海洋世界に向かう。
9:00	「青島極地海洋世界」視察	<p>・青島極地海洋世界は、朝早くから賑わっていた。規模の大きい水族館を想像していたが、極地の様子をジオラマで再現しているコーナーがあちこちにあり、テーマパークのようであった。シロクマ・ジュゴン・サメ・ウミガメなど写真を撮りながら、団員たちは自由に視察した。</p> <p>・団員たちはショップに並ぶ商品にも興味をもち、友達や家族へとお土産を買い求めている。2度目の買い物ではあったが、緊張感が伝わってくるほどで、身振り手振りで何とか買い物をすることができた様子だった。</p> <p>・30分程度のイルカのショーを見た。ここのイルカのうち2頭は下関市海響館から来ているそうだ。かなり広いホールが満席になるほど、大勢の観客でにぎわっていた。</p>



12:00	バスで移動後、昼食、ホテルで両替	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルのレストランで昼食。餃子、小籠包、蒸しパン、お粥などの飲茶料理は、どれも美味しかった。 ・ホテルのお店で両替してもらう。その場でついでにパンダのストラップを買う団員が大勢いた。
14:00	青島市婦人児童活動センター訪問  	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が週末などに活動するセンターである。舞踊や楽器の演奏、工芸品作りなど様々な活動が行われている。会場に入るとききれいな衣装に身を包んだ青島市の児童が拍手で迎えてくれた。タキシード姿で歯切れの良い司会、美しい衣装での舞踊に圧倒された。団員代表の村脇団員が中国語で挨拶を行うと、大きな拍手が起こった。 ・続いて団員の「パプリカ」の発表である。発表前に永野団員、廣野団員、中尾団員が「パプリカの歌とダンス」について中国語で説明を行った。初めての発表ということで少し緊張している様子ではあったが、途中から手拍子が起こると笑顔も出てきた。 ・次に「下関クイズ」を行った。通訳の郝さんの助けもあり、クイズは大盛り上がりで、正解すると「イエーイ」と日本と変わらぬ大きな歓声が上がった。 ・続いてチベット族の歌と踊りの披露をしてもらった。お祭りや大事なお客様をお迎えする時に披露するものらしい。男女とも素敵な民族衣裳を身に付けていた。発表後、その衣装を濱口団員と永野団員が着る体験をさせていただいた。衣装を身に付けたまま、皆で一緒に踊りのステップを教えていただき、青島の児童と一緒に踊りを楽しんだ。最後にプレゼント交換を行い、初めての交流を無事終えることができた。  
15:00	青島市防災センター(青島市家庭安全応急演練実訓基地) 訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・青島市防災センターまで歩いて行った。消防服を着た職員の方にセンター内を案内していただいた。火災の場合は、日本と同じ119番で消防署に繋がることや火災の際の逃げ方を教えていただいた。安田団員が急遽この場でお礼を言うことになったが、素晴らしい対応力で立派な挨拶を行った。 

16:30	公園を散策 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いの景色の素晴らしい公園を散策する。夕日が落ち始める時間帯、気持ちのよい風が吹く中でたくさんの方が散歩を楽しんでいた。小さな連凧が上がっていたり、大きなシャボン玉を作っている方がいたりして、のどかでゆったりとした時間が流れていた。10月だというのに、海で泳いでいる人を発見し驚いた。青島のシンボルである「五月の風」の前で記念撮影を行なった。
17:30	イオンで買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンに行って自由に買い物をした。お菓子のコーナーに行って家族や友達にお土産を買ったり、文房具を買ったりして青島の買い物を楽しんだ。値段を店員さんに尋ねながら、上手に買い物をする団員もいた。
19:00	レストランで夕食	<ul style="list-style-type: none"> ・回るテーブルにも白湯にも慣れて、賑やかに食事をした。肉にかかっていたたれが大変辛く、涙を流す団員がいるほどだった。焼き餃子やトマト入りのあんかけ卵が人気だった。 
20:20	ホテルに戻り反省会	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルのロビーで金嶋団長と吉田主事から、今日の振り返りと明日の連絡をしてもらう。2日分の振り返りを引率の松本まで持って行くように話し、各自部屋へ。コンビニに買い物に行きたい団員は、ロビーに集合した後、金嶋団長と吉田主事と一緒に買い物へ出かけた。 ・ホテルの部屋から自宅への国際電話がかけられるようになった。家族の声を聞いて、自然と涙が出てきた団員もいたようだ。
<p>【今日の振り返りより】</p> <p>○ ホテルでの朝食で床が1周するのに90分かかるといふことにびっくりしました。(回転レストラン) 色々な景色を見られるように工夫されていてすごいなと思いました。また、友達との仲も1日目より深まってきました。先生が言ったように最後には別れたくないというような仲になればいいなと思います。水族館ではイルカのショーなどを見て、とてもきれいでした。また、お土産コーナーもかわいいものばかりでなやみました。婦人児童活動センターでは、パブリカやクイズ、そして自分のあいさつを頑張りました。青島の子達の演技も素晴らしかったです。(村脇団員)</p> <p>○ 私は今日のイオンでうれしかったことがある。それは、値段を聞く時に言葉が分からなかったから、中国語勉強用の紙の値段を聞く部分を見せると分かってもらえたことだ。とても小さなことかもしれないけれど、私にとってはとても良い機会になった。初めての交流であまり話せなかったけど、プレゼントを渡すときに言葉が通じなくても、ジェスチャーや英単語でほんの少し会話ができただけからうれしかった。後3日しかないから、思いっきり楽しんで、勉強もしっかりしたい。(友村団員)</p>		

3日目：10月14日（月） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
6：50	朝食前に団長より	・昨夜団員が提出した振り返りについて、金嶋団長から団員に話をする。帰ってからの報告書についても触れ、青島での体験を記録としてしっかり残していこうと伝えた。
7：00	ホテルでバイキング形式の朝食	・全員元気に食事。昨日と違うものに挑戦して食べる団員もいれば、気に入ったものだけ食べる団員もいた。一番人気はハッシュドポテトで、これは最終日まで変わらなかった。
8：45	ホテルを出発	・バスの道中で姜さんの説明に熱心にメモをとる姿が見られた。反省を生かして頑張る団員の姿を見て安心した。
9：15	在青島日本国総領事館表敬	<ul style="list-style-type: none"> ・青島金融中央（センター）ビルの45階にある日本国総領事館を訪問する。 ・担当の方から領事館の仕事の説明を受ける。 ○ 領事館は例えれば、市役所のようなところ。 ○ パスポート更新や紛失したときの窓口。 ○ 青島に住んでいる日本人の援護。 ○ 窓口・・・旅券発給、紛失・更新などへの対応、結婚証明、選挙、査証（ビザ）発給 等 ・会議室に通され、中原総領事からのお話を聞く。「若い世代の交流はとても重要。日本と中国の懸け橋として、日中の友好関係を築いてほしい。」との話を団員は真剣に聞いていた。 ・小林団員の挨拶の後、担当の方から外務省の仕事について説明を受ける。資料に沿っての分かりやすい説明であった。説明が終わると、団員は意欲的に手を挙げて質問した。
11：00	青島市教育局表敬	<ul style="list-style-type: none"> ・青島市教育局の姜副局长より、青島の学校や教育の状況の説明を受けた。青島市城陽区の郝さんが通訳をしてくださった。 ○ 下関市とは一番初めに友好都市となった。 ○ 青島市は、海洋文化が栄えている。 ○ 青島市のシンボルは赤いレンガ、緑の木々、青い海、青い空。 ○ 北京オリンピックの時にはヨット競技が開かれた。 ○ 青島市には幼稚園2241箇所、小・中・高1032箇所、専門学校50箇所、大学25箇所ある。 ○ 日本語の授業がある学校もある。 ○ 日本への留学生は増加傾向にある。 ・金嶋団長の挨拶の後、団員代表の渡邊団員が中国語で挨拶、記念品交換、写真撮影を行った。



12:00	イタリアンレストランにて昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア人のシェフによる本格的なイタリア料理（スープ、スパゲティ、ピザ）をいただいた。久しぶりに中華料理以外のものを食べることができ、団員は嬉しそうだった。
14:20	文登路小学校訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・文登路小学校の児童が、玄関で団員たちを出迎えてくれていた。ホールに招かれると、すぐに小学生の児童による出し物が披露された。美しい踊りや圧倒的な歌唱力に団員一同引き込まれてしまった。お客様をもてなす舞踊と共に、美味しいお茶を入れてもらった。香りが良くほのかに甘いお茶は、たいへん美味しかった。 ・団員たちからの「パプリカ」の歌と踊り、「下関クイズ」は好評で、現地の児童に喜んでもらうことができた。 ・校舎内を案内してもらったが、芸術面を大切にしているという学校の方針通り、掲示してあった作品はどれも素晴らしい出来栄えだった。団員たちは目を見張って作品を見入っていた。 ・3Dプリンターが8台も置いてある教室があり、日本との設備の違いに驚きの声を上げていた。海のそばという立地を生かし、ヨットの学習もあると聞いた。 ・陶芸を行う教室に招かれ、作り方を教わりながら一緒に器作りを楽しんだ。ジェスチャーや簡単な英単語で交流する団員の姿が見られた。  
16:30	栈橋へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・青島ビールのマークの元になっている栈橋で散策する。夕方になって気温がぐんと下がったので、風邪を引かないかと心配した。
17:30	青島市政府主催 歓迎夕食会 	<ul style="list-style-type: none"> ・青島市政府主催で夕食会が開かれた。青島市外事弁の謝さんたちと一緒に立派なレストランで夕食をいただいた。会食中、団員が一人ずつ青島で感じたことを発表した。吉岡団員は「中国の人が怖いと思っていたけれども印象が変わった。」、吉谷団員は「小学校に交流に行った時に積極的に話しかけてもらって嬉しかった。」と話した。濱口団員が「昼ごはん食べた餃子が美味しかったので、もう一回食べたい。」と話すと笑いが起こり、場が和やかになった。
20:30	ホテルに戻り解散 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつものようにロビーで反省会をする。交流活動としては明日が最後になること、出発が早いので遅れないことを確認し解散する。

【今日の振り返りより】


- 今回の日本領事館表敬訪問で、少し国際関係の仕事への興味がわいてきました。日本人と中国人が仲良くしたり、仕事をしたりするのは楽しいと言っていたので、「いいなあ。ここで働いたら楽しそうだなあ。」と思いました。(池田団員)
- 今日、午後の2時から文登路小学校で中国の子供達と交流しました。中国の子供達の出し物は、全部上手で特に歌がきれいでした。ぼくたちも負けられませんでした。パプリカを大きな声で歌えたので嬉しかったです。交流の時、横にいた人が英語で言ってくれたので「やさしいなあ。」と思いました。あと2日なので、早く帰って家族のみんなに会いたいです。(濱口団員)

4日目：10月15日（火） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
6：30	ホテルでバイキング形式の朝食	・朝、お腹が痛いという団員がいたが、朝食は皆と取ることができた。集合が早かったが、遅れることなく全員集合できた。
7：20	ホテルを出発	・ホテルのロビーに集合すると、出発までの時間に集まって発表の確認をしていた。交流最終日、団結している様子を見て嬉しくなった。 ・ガイドの姿さんやバスの運転手さんに対する中国語での挨拶は、自然とできるようになっている。
8：00	青島日本人学校訪問	<p>・学校の玄関で全校児童の温かい出迎えを受ける。会議室で金森校長より、学校の概要の説明を受ける。</p> <p>・現在、青島日本人学校には小一から中三まで83人の児童・生徒が在籍。転出入が多く入れ替わりが激しいが、その中で充実した学校生活を送れるようにしているようだ。</p> <p>・体育館で歓迎の会を開いてもらった。衛藤団員の挨拶の後、お互いの出し物を発表する。日本人学校の6年生の児童は15人で和太鼓の演奏を、団員たちは「パプリカ」の発表をした。</p> <p>・金森校長の案内で校内を見学する。団員たちは、屋内プールがあることに大変驚いていた。</p> <p>・6年生の教室で交流活動を行う。自己紹介をした後、それぞれが質問をしたことに対する回答を発表した。</p> <p>・6年生の児童と団員たちは5つのグループに分かれ、交流ゲームを行った。引いたくじを元に話すうちに、あちこちで笑い声が上がっていき、あっという間に打ち解けていった。</p> <p>・「青島に来て驚いたこと」をもとに「日中交流」について考えた。研修前は中国に対してあまり良いイメージを抱いていない団員もい</p>





		<p>たようだが、この時には「物価が安い」「青島の人には優しい」「下関市と違って都会だ」などの発言が聞こえた。実際に体験・交流することで中国へ対する思いの変化があったようだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生との交流を終えると、全校児童が玄関で待っていてくれた。記念撮影をし、見送りを受けてバスに乗り込んだ。
11:30	ドイツ料理のレストランで昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・サラダ、ソーセージ、フライドポテトやカレーライスが出てきた。カレーはスパイスが効いていたため、辛いと苦戦している団員が多かったが、それでも頑張って完食していた。
13:00	青島軌道交通産業モデルエリア科学技術館	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の新幹線の60%はここで製造されているようだ。2030年までには新幹線を中国全土に巡らすような計画があるようだ。団員が喜んだのは、VR体験ができたことだった。中国の過去・現在・未来までの鉄道を感じる事ができた。最後に宇熊団員の挨拶、記念撮影をし、お土産にしおりを頂いた。 
14:00	オタフクソース視察（日系企業）	<ul style="list-style-type: none"> ・広島に本社があるオタフクソースの中国工場を見学させていただいた。この会社は1922年創業。広島の前爆で工場が壊れた後、再建して今の甘くてとろみのあるソースを作るようになったそうだ。ソースの中にデーツという砂漠に生息する果物をいれることで、独特の味が作られるということだ。 ・見学の後、お好み焼きをいただいた。昼食をとって間もなかったが、久しぶりの日本の味に、「美味しい、美味しい。」とあつという間に平らげた。 
15:40	城陽区第二実験小学校訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生の案内で、書道、琴、吹奏楽、合唱、演劇、舞踊の部活動を参観した。書道の部活では、金嶋団長と山田団員が「日中友好」という文字を書いた。眼を見張るような舞踊の演技を見せてもらった後に、「パプリカ」の発表ということで、はじめ団員たちは尻込みしていたが、「踊りだけでなく歌声で気持ちを伝えよう。」と気合を入れて発表することができた。演舞を披露した青島の児童と一緒に踊り出してくれ、2回目は団員たちと一緒に青島の児童も「パプリカ」を踊った。笑顔と一緒に踊り交流する姿に感動した。 

		<p>・運動場での部活動を参観した後、校舎内に入り6年生の児童15名と交流を行なった。友村団員の挨拶、「下関クイズ」を行なった後プレゼント交換をした。青島の児童からのプレゼントに圧倒された様子だったが、皆嬉しそうだった。名前や住所が書いてあるメモを交換したり、写真を取り合ったりする様子も見られた。</p> <p>・校舎の外に出た時には辺りは暗くなっていたが、交流に大満足した団員たちの表情はとても明るかった。</p>	
18:00	城陽区主催歓迎夕食会	<p>・城陽区主催の夕食会では、今回の研修でお世話になった皆さんと一緒に食事をいただいた。青島滞在中にいただいた料理の中で、一番口に合っていたようで、どの料理も美味しくいただくことができた。</p>	
20:30	ホテルに戻って反省会	<p>・明日は出発が早いので、必ず今夜のうちに荷物の整理を終えてから就寝することを確認し、解散する。</p>	
<p>【今日の振り返りより】</p> <p>○ 交流では男の子から中国のきれいな小さな凧をもらった。細かくてとても感激した。その男の子と住所を交換して仲良くなれたから積極的に話すのは良いことだと分かった。今日が最後の交流だったけど、最高の思い出ができて良かった。(渡邊団員)</p> <p>○ 最後の研修で行ったオタフクソースの会社と小学校の交流が心に残った。オタフクソースでは、日本人でも知らないことや、世界の色々な所にオタフクソースの会社があるということを知った。最後に行った小学校では、たくさんの方がお出迎えしてくれたり、とてもすごい舞踊や合唱、ミュージカルのようなものなどを見せてくれたりして、スケールが違ってすごいなと思った。また、パプリカでは、みんなが交流して絆が深まりました。6年生との交流では住所を交換することができて、とても良い経験になった。(衛藤団員)</p>			

5日目：10月16日(水) 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
6:30	ホテルで朝食	<p>・寝坊してぎりぎりに起きてくる団員もいたが、時間には全員そろって朝食。最後だから好きな物をたくさん食べていた。</p>
7:30	バスで青島空港へ	<p>・バスに乗り込んでいる時に、部屋に忘れ物があったと連絡が入り、慌てて取りに戻る。</p> <p>・今までの疲れが出たのか、ぐっすり眠っている団員が数名いたため、いつもよりも車内が静かだった。</p> <p>・空港が近づくと、吉田主事から12月1日の研修会について話があった。A4サイズ2枚にまとめるよう指示を受ける。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 5日間お世話になった運転手の刘さんとガイドの姜さんに中国語でお礼を言って感謝の気持ちを伝えた。
9 : 0 0	青島空港到着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋滞に巻き込まれたせいで、空港での時間が短くなる。その上、並んでいたチェックインカウンターでトラブルが起きていて、ずいぶん待つことになった。そのため、慌てて出国手続に行くことになり、ここでお別れする吉田主事や郝さんにきちんと挨拶ができなかったことが悔やまれた。お土産を買う時間もほとんど取れず、空港職員に急かされるように飛行機に乗り込んだ。 
1 0 : 1 5	中国東方航空機で出発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団員たちは、機内で座ってやっとほっとした表情になる。5日間も過ごした青島との別れを思うのか、窓の外をずっと見ている団員もいた。飛行機の中では、5日間の疲れが出たのかぐっすり眠っている団員もいた。
1 3 : 4 0 ここから日本 時間	福岡空港到着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定通り福岡空港に到着する。久しぶりに「家に帰られる。」と喜びの声をあげている団員もいた。 ・ 空港でトイレに行った団員は「やっぱり日本のトイレは美しい。」と感激していた。
1 4 : 0 0	バスで新下関へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 途中、古賀でトイレ休憩をする。 ・ 関門橋を渡る時には、「やっと下関に帰ってきた。」と声があがってきた。
1 5 : 4 0	新下関駅到着 解団式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約30人の出迎えの方に見守られての式であった。山田団員が5日間の研修で学んだことを述べた。団員全員がすべての行程に参加できたこともすばらしかった。 

終わりに、このような貴重な機会を与えてくださいました前田下関市長をはじめ、関係機関の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。